

市民まちづくり フォーラム

知ろう、語ろう、仙台の重要プロジェクト2017



日にち 平成29年11月5日(日) 13:00~16:30

場所 TKPガーデンシティ仙台 (ホールB)
仙台市青葉区中央1-3-1アエル30階

主催: 仙台市

まちづくり政策局政策企画部政策企画課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1

TEL:022-214-1268 FAX:022-214-8037 Eメール:mac001620@city.sendai.jp



経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

主催: 仙台市

市民まちづくり フォーラムとは

仙台市では、本市が目指す都市像などを掲げた「基本構想」や「基本計画」に基づき、取り組むべき具体的な施策・事業を、「実施計画」において定めています。また、これらによる取り組みのうち重要な施策については、市民の皆様との協働により、評価・点検を行うこととしています。

市民まちづくりフォーラムは、市民の皆様に、これらの計画等に基づき本市が取り組んでいる、または検討している重要プロジェクトの現状を評価していただき、より良い施策とするための課題などについて、ご意見、ご提案などをいただくことを目的に、開催しているものです。

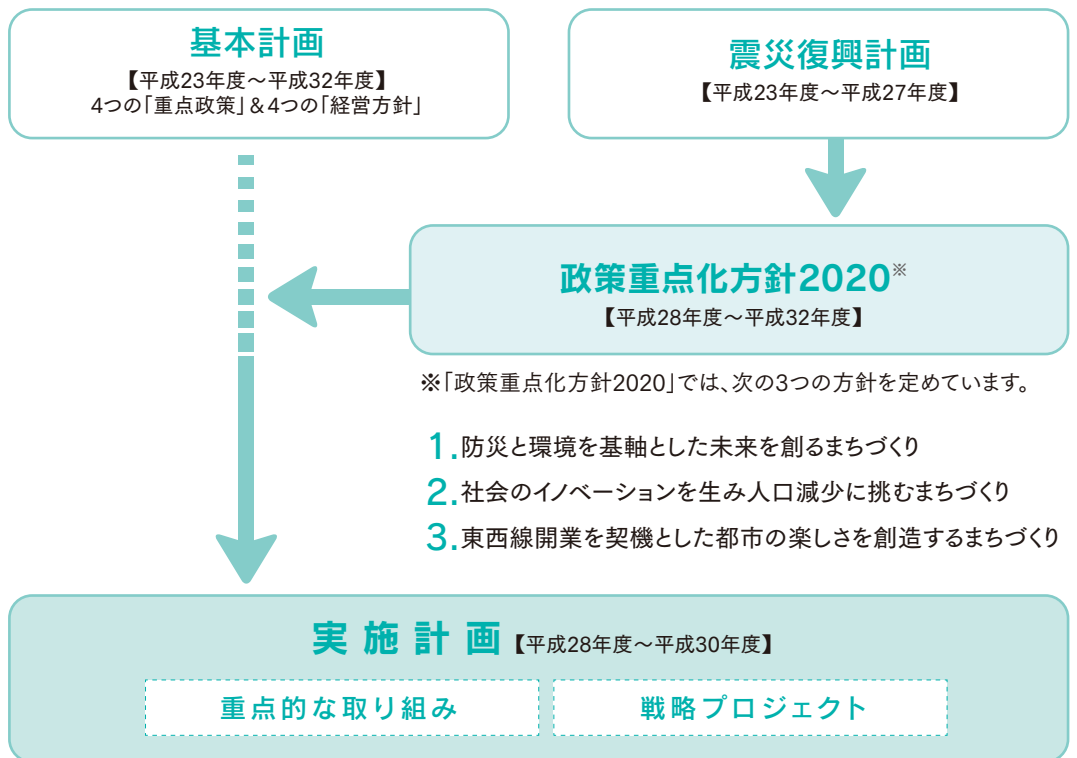
このフォーラムの開催は今年度で6回目となります。より多くの市民の皆様に参加いただくため、無作為に抽出した市民の皆様に参加依頼状を送付し、ご希望された方々に参加いただく方法を採用しております。今回は3,500名の方々に依頼した結果、106名の方々が希望され、当日は52名の方々に参加いただきました。

仙台市の 計画体系

本市は、平成23年3月、21世紀半ばに向けて目指すべき都市の姿を示す「基本構想」と、これを実現するための10ヵ年計画である「基本計画」を策定しました。また、同月に東日本大震災が発生したことを受け、これらを補完するものとして、復旧・復興に向けた「震災復興計画」を策定しました。

平成27年度末には、「基本計画」が中間年次を迎えるとともに、「震災復興計画」の計画期間が終了することから、「震災復興計画」の理念を発展的に継承しながら、平成28年度からの5年間に重点的に取り組むべき政策の方針として、「政策重点化方針2020」をとりまとめました。

現在の「実施計画」は、これらの計画や方針に沿って、平成28年度からの3年間に体系的・計画的に取り組むべき具体的な事業を定めています。



平成29年度
市民まちづくり
フォーラムについて

仙台市の重要プロジェクトの現状を
「評価」していただき、
今後、より良い施策とするために課題などについて
ご意見・ご提案などをいただくことを
目的として、グループワーク形式で開催

■タイムスケジュール

13:00	開会
13:00～13:10 (10分)	オリエンテーション
13:10～13:20 (10分)	各グループの施策説明
13:20～13:30 (10分)	専門家からの論点提示
13:30～15:30 (120分)	テーブルトーク
15:30～16:30 (60分)	発表会
16:30	閉会

フォーラムの流れ

施策説明

各施策を担当する職員が
施策の取り組み状況をご説明します。



専門家からのアドバイス

各施策の専門家から論点や
問題点などを提起していただきます。



テーブルトーク

施策の評価や今後の展開等について
ファシリテーターの進行により
参加者の皆様同士で話し合います。



発表会

各グループで話し合った結果について
他のテーマ参加者と共有してもらうため、
発表を行います。



震災メモリアル施設を活用した 記憶と経験の継承



主な説明内容

荒井駅にある「せんだい3.11メモリアル交流館」と4月に公開を開始した「震災遺構仙台市立荒浜小学校」。2つの震災メモリアル施設を活用した震災の記憶と経験の継承について話し合いました。

せんだい3.11メモリアル交流館
Sendai 3.11 Memorial Community Center

この施設は、3.11の出来事から学び、被災者への支援や防災意識の向上を図ることを目的として、建設された。また、震災の記憶を次世代に伝える役割も果たす。施設は、展示スペース、交流スペース、展示室、スタジオなどから構成されている。また、震災の記憶を伝えるための展示も充実している。

交流スペース
各種ワークショップや、交流活動などにより、被災者や関係者のつながりを深め、絆を築いていく場です。

展示室
震災の記憶や、被災者の体験などを伝える常設展示室。また、震災の記憶を伝えるための展示も充実している。

スタジオ
各種ワークショップなどに使用するほか、震災や被災地の記憶を伝えるための展示も充実している。

観覧時間
10:00-17:00

休館日
毎週月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
毎週土曜日（祝祭日の場合はその翌日）
年末年始（要予約）

住所
〒984-0022 宮城県仙台市青葉区荒井3-4-4
仙台市立荒浜小学校内

アクセス
仙台駅より地下鉄荒浜駅まで徒歩13分
車：荒井駅（仙台駅東口）から徒歩10分

震災遺構 仙台市立荒浜小学校
Ruins of the Great East Japan Earthquake: Sendai Arahama Elementary School

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、被害を受けた仙台市立荒浜小学校の校舎が、震災遺構として保存されています。この校舎は、震災の記憶を伝えるための重要な施設として、保存されています。

観覧時間
10:00-16:00

休館日
毎週月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
毎週土曜日（祝祭日の場合はその翌日）
年末年始（要予約）

住所
〒984-0022 宮城県仙台市青葉区荒井3-1-1

アクセス
仙台駅より地下鉄荒浜駅まで徒歩13分
車：荒井駅（仙台駅東口）から徒歩10分

専門家から



東北大学災害科学国際研究所
准教授

佐藤 翔輔氏

今回のフォーラムをきっかけに、参加者のほとんどが2施設を新たに利用し、現状について真剣に考えていただきました。市外・県外から両施設への来訪者が多いなかで、テーブルトークでは「市民として、2施設のことをどう思っているか・どう向き合いたいかな」を率直に議論していたと思います。提示した2つの論点については、「すぐに使える」具体的で建設的なアイデアをいただきました。今後も、市民のみなさんと一緒に、仙台市における東日本大震災のメモリアル・遺構について考える場が継続的にあるといいと思います。

ファシリテーターから



公益財団法人
仙台市市民文化事業団

北野 央氏

今回のために初めて震災メモリアル施設を訪れた参加者の方々が多く、中には震災に関心があっても、どうしてもわからないという感想もありました。そのため、これらの施設で私たちは何ができて、何を学ぶことができるのか、市内外の方々にもっと工夫して伝える必要があると気づかされました。また、改善のための具体的で魅力的な提案が多く出されたので、今後、関係者のみなさんと検討してもらえればと思います。

専門家からのアドバイス

せんだい3.11メモリアル交流館を身近に感じる市民(沿岸部に縁がある)や、遠く感じる市民(沿岸部に縁がない)、市外の方などそれぞれの立場の方に訪れてもらうためにはどうすればいいだろうか。震災遺構仙台市立荒浜小学校の老朽化が進み、数十年後に現状維持が困難になったときどうすればいいだろうか。この2つの論点について話し合いました。

事例として平成16年新潟県中越地震の被災地における中越メモリアル回廊、特に現在でも来訪者が絶えない旧山古志村木籠地区を紹介。ここにある郷見庵は地域住民が運営し、物販・展示・交流の機能があるだけでなく、来訪者が参加できるイベントを継続的に実施。来訪者が施設運営の担い手になるなど様々な工夫が施されリピーターを創出しています。近くには、河道閉塞により水没家屋が震災遺構として保存されています。旧山古志村の施設は、仙台市が有する2つの施設と位置づけが似ていることから「先輩の事例を踏まえて」仙台市ではどのようにすべきかを考えてもらいました。



テーブルトークの結果

せんだい3.11メモリアル交流館を訪れてもらうために

参加者のほぼ全員から「せんだい3.11メモリアル交流館は認知度が低い」という意見が挙がりました。

専門家からは、新潟県旧山古志村木籠地区の郷見庵が参考事例として示され、農産物の販売や地震に関する展示、来訪者が参加できるイベントの継続的な開催など、様々な工夫を施した取り組みが紹介されました。

事例の紹介を受けて、参加者からは、知名度を上げるための広報の実施、飲食物や農産物の販売、文化イベントの開催、市内の小学校と連携した校外学習の実施、せんだい3.11メモリアル交流館を拠点としたサイクリングロードの整備、ガイド付きバスツアーの実施、駐車場の整備、屋上展望スペースの活用など、多くの提案がありました。

震災遺構仙台市立荒浜小学校の将来

荒浜小学校を震災遺構として保存したことに対して、参加者からは評価する声も挙がった一方、将来的な維持を懸念する声も挙がりました。

専門家からは、劣化で崩れかけていた遺構を修繕した、旧山古志村木籠地区の水没家屋の事例が紹介されました。

事例の紹介を受けて、参加者からは、「劣化状況や修繕費用、今後の見通しなどを整理し、ある程度の時期で市民に問いかけるべきではないか」、「映像や写真、冊子をしっかり残り、充実させていくべきではないか」、「証言映像では多様な視点を考慮すべきではないか」といった意見が出されました。

また、せんだい3.11メモリアル交流館と震災遺構仙台市立荒浜小学校の両方に共通して、「来訪者によって求める情報が違うのではないか」、「来訪者の感想を被災者に伝える仕組みがあると良いのではないか」などの意見も出されました。

テーマ担当職員から

参加された方々から日頃の思いや実際に施設を見学した上でのご意見、ご提案をいただく中で、震災の記憶と経験を将来にわたって力強く発信し続けなければならないという覚悟とともに、市としてまだまだできる取り組みはあるということを変更して痛感いたしました。今回いただいたご意見を踏まえながら、今後の取り組みを進めてまいります。

まちづくり政策局
震災復興室
佐々木 史也

まちづくり政策局
防災環境都市推進室
黒坂 徳行

参加者からの主なご意見

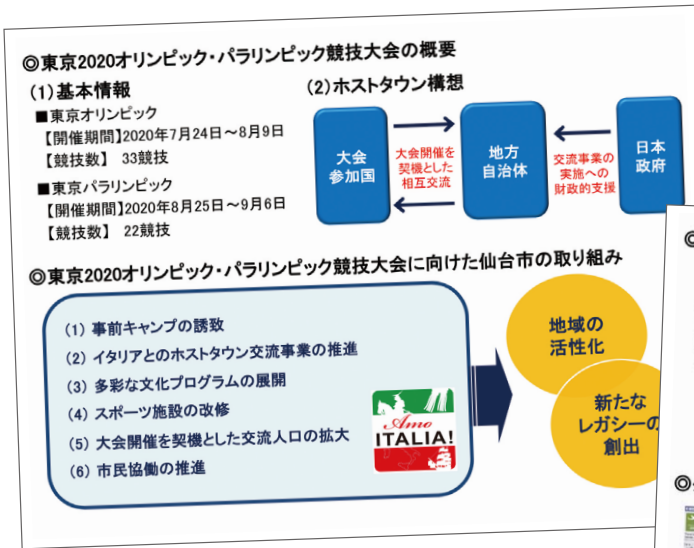
- ◎せんだい3.11メモリアル交流館
施設の認知度を上げ、多くの人に訪れてもらうための取り組みを工夫すべき。
- ◎震災遺構仙台市立荒浜小学校
将来、老朽化が進んできた段階で、その後の在り方を市民に問いかけるべき。



2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたおもてなし

主な説明内容

2020東京オリンピック・パラリンピックでは、仙台市はイタリアのホストタウンに登録され、各種競技の事前キャンプ誘致を目指しています。大会に向けた交流促進、交流人口の拡大に向けたおもてなしの取り組みについて話し合いました。



◎来仙外国人観光客の状況



◎外国人観光客誘致のための仙台市の取り組み



専門家から



株式会社VISIT東北
代表取締役

齊藤 良太氏

テーマを絞って、イタリア人をどうやって仙台へ連れてくるか。そのために必要な要素である次の3つを話しました。

- ①プロモーション
- ②観光コンテンツ
- ③受入環境・インフラ

それぞれの項目においてたくさんの施策アイデアが出てきました。

市民の皆さんも旅に関しては、ご自身の経験からも多くの知識を持っていると感じました。また、仙台市(行政)の施策に期待するというよりも、市民発信の施策を展開する方向で議論も進み、テーマとしては非常にいい形で盛り上がりを見せました。

ファシリテーターから



第一印象研究所 代表
接客マナー&アングーマネジメント
コンサルタント

杉浦 永子氏

今回、印象に残ったキーワードは「巻き込み力」「仙台ブランド」「継続＝形」です。参加された方々は仙台のおもてなしに対する意識レベルが高く、アイデアに富んでいました。専門家の齊藤さんがアドバイスされたように、仙台と言えば〇〇!というブランドが完成されることに尽きると思います。さまざまな体制を整えるためにも、仙台市と意欲ある市民の方々が積極的に関わり、規模が小さくてもチームを組み継続することで形を残すことを期待します。

専門家からのアドバイス

2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として、今回のようなトピックが話し合われる機会が増えてきましたが、仙台市でもこのタイミングを最大限に活かしていければと考えます。オリンピック・パラリンピックの開催は、インバウンド促進にも繋がります。交流人口を増やすことで、仙台市の経済が潤い、少子高齢化にも耐えうる元気なまちづくりを実現できます。このチャンスを最大限に活かして取り組んでいく必要があります。

現在、仙台市はイタリアのホストタウンとして登録されましたが、イタリアという1国に絞り、仙台市のブランド化を図るのは面白いと思います。姉妹都市などの考え方もありますが、例えば、長崎はオランダ、横浜は中国というイメージがあるように、仙台市はイタリアというイメージを新たに創出することで、仙台市のブランド化を図ることもできるということです。こういった背景からインバウンドと仙台市のブランド化をテーマとして、そしてターゲットをイタリアに絞って議論することにします。



テーブルトークの結果

イタリアからの観光客を想定

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたおもてなしについて意見を交換しました。仙台市はイタリアとの深い交流を目指しているため、イタリアからの観光客にターゲットを絞って話し合いました。インバウンドに向けたアクション、ホスト側の気持ちの準備、商品の洗い出し、そして地域ブランド向上を目指した仙台市のイメージ創出が大切、というアドバイスを交えながら話し合いを進めました。具体的に「仙台にイタリアの観光客が一週間滞在する」と仮定し、プロモーション・観光コンテンツ・受け入れの3点について、2グループに分かれて意見を出し合いました。

「仙台のオリジナル」や目的に合ったツアーを

まずは土産品の充実が必要であり、ターゲットを絞ったゆるキャラグッズや日本酒はどうか、という意見がありました。イタリア語表記の充実、プロモーション、ロゴ作りなどを進め、実現に向け調査や商品開発を計画的に進めていくことが大切、という結論に至りました。また、工夫する点として市民から始める「仙台のオリジナル」を確立出来たら、という意見もありました。もう一方のグループでは、モデルコースやシンボルマークの作成、イタリア語対応について意見が挙がり、体験型観光プランの作成・温泉めぐりやサイクリングという提案もありました。理容室での「仙台刈り」体験や、ものづくりや天文台見学といった学習、カラオケ体験など「体験」や「学習」などに特化したツアーを組み選んでもらう、という意見が出されました。

テーマ担当職員から

オリンピック・パラリンピックや外国人観光客誘致に高い興味・関心をお持ちの方が多く、充実したテーブルトークになりました。

話し合いの中では、着付けやサイクリング、祭りへの飛び込み参加などの体験型観光の充実や、魅力的なお土産の開発について具体的な提案をいただいたほか、市の取り組みについて情報発信が不十分というご指摘もいただきました。頂戴した様々なご意見を踏まえながら、今後も取り組みを進めてまいります。

文化観光局 誘客戦略推進課 高坂 真理子
文化観光局 スポーツ振興課 最上 ひと美

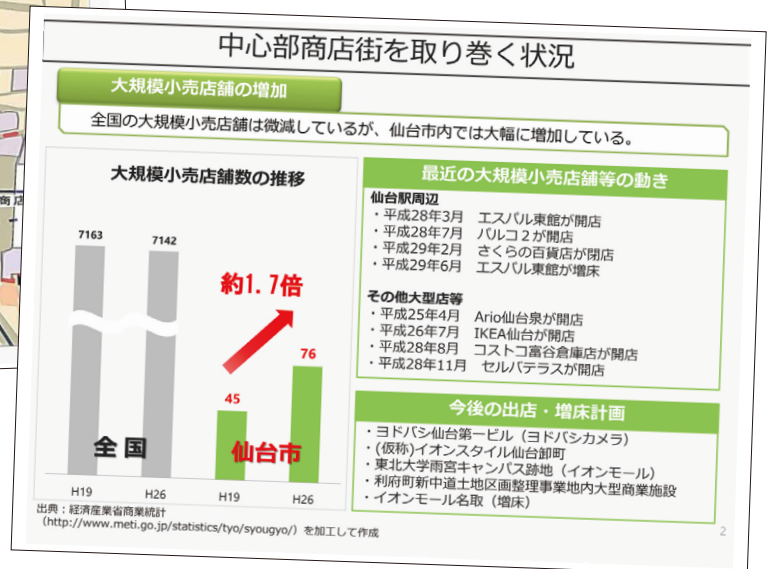
参加者からの主なご意見

- ◎海外からの旅行者増加が大事な財源のひとつという意識が市民にまだ浸透していないと思うので、民間レベルでも言葉(外国語)の問題を解決できるよう早めの働きかけが必要だと思う。
- ◎イタリアだけではなく全ての外国の方のおもてなしについて考えたかった。
- ◎まずは、イタリアのホストタウンとして、繋がりを強くするのが一番、そして、継続的に繋がりを持つように、選べるプランをたくさん作成するのがいいと思った。

中心部商店街のにぎわいづくり

主な説明内容

仙台駅前には大型商業施設等ができ、にぎわいが増えています。このにぎわいを中心部全体に広げていくために、仙台駅前から商店街に人々を回遊させていく方法や、イベントも含めた、より魅力的な商店街をつくる取り組みについて話し合いました。



専門家から



仙台市中心部商店街
 活性化協議会 事務局長

石井 光二氏

市民目線からの意見が多く、非常に有意義な話し合いとなりました。魅力が足りないなら発掘しよう、情報発信しよう、来街者にやさしい商店街を仙台らしさにして、隣接するエリアに個性的な店舗を誘致し、商店街を拡大しよう等、多くの意見が出ました。誰のための商店街活性化か、という問いには「三方よし」の意見がありました。店舗のみならず、お客さま、市民の三方よしが大切という考え方は、これからの中心部商店街活性化のキーワードになると思います。

ファシリテーターから



フリーアナウンサー

黒田 典子氏

今回、10代～60代の方々や学生、仙台育ちの方、通勤族の方など10名の方と話し合いました。そこは、仙台愛を感じる時間。買物はインターネット派、アーケードは通勤経路でも、中心部商店街は大切に好きな場所。仙台らしさを表す、年代別アプローチ、特別感を出す、分かりやすい情報発信、駐車場などについての提案にはその気持ちが込められていました。率直な意見を施策施行に反映するという貴重な機会と、メンバーに恵まれたことにも感謝します。

専門家からのアドバイス

仙台市では平成22年に「仙台市中心部商店街将来ビジョン」を策定しました。以来、商店街を中心に大型店や報道機関、学識経験者、行政機関など関係者連携（市民協働）による協議会を設立するなど、さまざまな中心部商店街活性化の取り組みを進めてきました。

課題としては、ショッピングセンターやアウトレットなど郊外型大型店との競合、通販やインターネットショッピングなどeコマースの拡大、さらにはエリア内での仙台駅周辺への集客施設集中による通行量の変化などがあります。同時に、店舗構成が地元からナショナルチェーンに変わっていき、中心部商店街から仙台らしさが失われる等の問題が進行しています。

商店街活性化とは「人が集まるまち」であることです。それでは、現在の中心部商店街には人が集まる魅力があるのか。郊外型大型店やインターネットショッピングと比べて快適なのか。そのような視点から、広く意見を出しましょう。そして、何をしたらよいかを話し合しましょう。



テーブルトークの結果

市民から見た中心部商店街

中心部商店街の現状や課題として大きく3つの話題がありました。まずは、全国チェーンのお店の出店が多くなっており、一方、昔から仙台にある個性なお店が減少したことで商店街に「仙台らしさ」が失われてきているのではないかとという点。次に、商店街でいつ、どのようなイベントが行われているかが分からないことや、参加店舗での買い物などでもらえる共通駐車券「まちくるチケット」の認知度が低いということなどから、情報発信が足りないのではないかとという点。最後は、年齢層が上の方はチェーン店のカフェよりも昔ながらの喫茶店の方が魅力的に感じるなど、世代によってどのような商店街に魅力的を感じるかは違うのではないかとという点です。また、中心部以外の商店街と比べ、中心部商店街は賑やかで特別な場所であるという意識を持つ方が多かったです。

中心部商店街をもっと盛り上げるためにはどうすればいいか

先に挙げた3つの話題について、それぞれの解決策を話し合いました。「仙台らしさ」については、中心部商店街を基軸に、その周りにもお店を広げていくことで地元の人たちもお店を出せるようになり、個性が出るのではないかとという話題になりました。また、情報発信については、継続性のあるイベントを実施し話題性を上げること、積極的にSNSを使用することが提案されました。最後に世代別の魅力の感じ方に関しては、レトロな喫茶店が連なるカフェ通りを作ることで女性の関心を引いたり、若者をターゲットにアニメ作品の聖地巡礼などのタイアップ企画を作る、商店街にプロスポーツ選手を呼ぶといった意見がありました。

最後に、誰のために商店街を盛り上げるのかという話題に対しては、お店、仙台市民、観光客など外から来る人の三方誰にとっても魅力あるものにすることで、より多くの人がある賑やかなまちになるのではないかと結論になりました。

テーマ担当職員から

ご参加の皆さまからは、中心部商店街に対する想いや魅力、どうすれば活性化するか具体的なご意見をハード、ソフトを問わず幅広い視点からいただきました。また、情報発信の不足や「仙台らしさ」が少ないなどといった課題もご指摘いただきました。今回の議論も踏まえて、東北の中心である仙台市の中心部商店街をより魅力的で特別なエリアとするべく、商店街の皆さまと連携しながら取り組みを推進してまいります。

経済局
地域産業支援課
安藤 誉文

経済局
地域産業支援課
野地 あゆみ

参加者からの主なご意見

- ◎情報発信では、駅や地下鉄などを活用するとともに、SNSなどでの発信を行う。
- ◎駅前大型ビジョンを設置しイベント情報などを常に案内するのはどうか。
- ◎市が主導してイベントの発信チャンネルを検討する。魅力的なイベントは現在も多いので、若者にはSNSを使い、中高年には折込チラシを使うなど世代ごとにメディアを使い分ける。
- ◎リアルにはネットにない魅力があるので、そこを発信する。
- ◎駐車場情報ボードを設置することでわかりやすくする。
- ◎大型カート置き、駐車場までの移動を楽にするのはどうか。
- ◎大型専門店にはない良さが必要だと思う。
- ◎安全安心の商店街づくりに取り組むボランティアやガイドの配備があるとよい。
- ◎仙台市の魅力の整理を行うとともに、新しい魅力づくりになりえる資産を集める。

子どもの居場所づくり

主な説明内容

仕事等で親が日中家を不在にすることが増えており、子どもの居場所を確保する必要があります。

児童クラブや放課後子ども教室に加えて、こども食堂などの新たな取り組みも含んだ子どもの居場所づくりについて話し合いました。



～子どもの居場所づくり～

児童クラブ

放課後等に保護者が就労等により家庭にいない児童を対象に、児童館等にて児童クラブを開設しています。女性の就労意欲の高まりや受入対象学年の拡大等により、児童クラブの利用者数は年々増加傾向にあります。



放課後子ども教室

放課後等の小学校施設等を活用して子どもたちの安全な居場所を設けるとともに、地域の方々や保護者の協力を得て、地域に根ざした多様な体験活動や交流活動、学習・スポーツなどの機会を提供するものです。これにより、子どもたちが自ら学ぶ力をつけ、さらに地域で子どもを育む環境を整えることを目的としています。

こども食堂

十分な食事がとれない、ひとりでをしなければならない子どもに対し、料もしくは安価に食事を提供する市内の地域団体・NPO法人などの活動として広がっています。

1 児童クラブについて(その1)

児童クラブの概要

仙台市では、放課後等に保護者が就労等により家庭にいない小学1年生から4年生及び障害等により特別な支援を必要とする5年生の児童を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、その健全育成を図ることを目的として、児童館等において登録制の児童クラブを開設しています。

今後、対象学年を段階的に拡大し、平成31年度当初には小学6年生までの全ての児童を受け入れることとしています。

また、児童館のみで児童の受入れが困難な場合は小学校の余裕教室や近隣の集会所等の公共施設、民間物件等を活用し「サテライト」として児童を受け入れています。(平成29年4月時点で49児童館で68か所のサテライトを設置しています。)

児童クラブの開設時間等

開設時間	基本利用		延長利用
	平日	放課後～18:00	18:00～19:15
土曜日	9:00～17:00	—	
長期学校休業日 (土曜日を除く)	8:00～18:00	18:00～19:15	
保護者負担金(登録児童一人あたり)	月3,000円	月1,000円	

※上記負担金のほか、おやつ代や保険料、行事参加料等の実費分の負担あり。

※生活保護世帯、市民税非課税世帯等には、基本利用分の負担金について減免制度あり。

専門家から



特定非営利活動法人
ワークスコープ
東宮城野マイスクール児童館
館長

瀬戸 理音氏

異なる3つの居場所づくりの情報発信について多くのアイデアが出ました。私が「皆さんの地域で、明日から自分自身には何ができますか?」と尋ねると、全員が口をつぐんだ瞬間がありました。ある意味、これが「答え」だと思います。クリアすべき課題に対して、参加者全員の意識が「そこ」に向いたからです。今回の議論を契機に、子どもたちの居場所をどう守るのか、絶えず考え、参加者自身が情報発信源となり、地域全体での子育てにつながればと強く感じました。

ファシリテーターから



アリティエヴィー株式会社
副社長 アナウンサー

浜 知美氏

私も母であり、子どもが児童クラブを利用しています。今回は、ファシリテーターとして、利用者として、両方の立場で参加しました。市民の方々が3つの制度を評価したところ、制度自体あまり知られておらず、市民への情報発信が一番の課題でした。参加者の中には、子どもたちのために動きたいが、情報が少ないため行動できない方もいました。子どもの居場所は親、地域、学校、児童クラブなど、みんなで「協働」で作っていきべきだと実感しました。

専門家からのアドバイス

国の施策に基づく「児童クラブ事業」、市教委が委託し地域住民の協働で運営している「放課後子ども教室」、地域団体やNPO法人等市民の主体的な活動である「こども食堂」、これら3つの「居場所」の現状や課題は次の通りです。

- ①待機児童の解消を目指すのは評価できますが、各児童に対する十分な居住スペースの確保が困難です。また、ハコを増やしても、担い手不足が深刻です。
- ②地域住民(地域資源)と学校との連携による運営が、地域全体での子どもたちの見守りに繋がっています。運営は有償ボランティアに頼っており、協力者や担い手の発掘が課題です。
- ③「子どもの貧困」にスポットが当てられがちですが、活動の意義としては地域との繋がりをつくるという側面もあります。市民主体の活動であり、協力者、食材、場所、資金の確保、地域の理解が必要です。また、事業の継続性と行政の関わり方が課題です。各事業の課題はそれぞれ異なりますが、自分は何ができるのか考えましょう。



テーブルトークの結果

さまざまな子どもの居場所のかたちと、それぞれの課題

今回取り上げた話題は、児童館で児童を一時的に預かる児童クラブ、放課後の小学校等で体験や学習を通して地域との繋がりを育てる放課後子ども教室、子どもに無料・または安価に食事を提供することも食堂の3つでした。放課後子ども教室は、地域との交流ができ、様々な体験を無料で出来るというのは良い取り組みという意見が出ましたが、児童クラブに関しては、子どもが多く一人一人ゆったりと過ごせないことや運営側の職員不足、こども食堂に関しては、NPO等運営のため人員・物資・資金・広報どれも足りないことや、対象の子どもを決め方の難しさ、逆に支援したくてもやり方が分からないことといった課題が挙げられました。

地域をあげてどうやって解決していくのか

そもそも、児童クラブ・放課後子ども教室・こども食堂といった存在自体やその課題を知らない人が多く、情報発信が足りないのではというところから、地域メディアや市政だより、町内会の回覧版、ショッピングモールなどでもっと情報発信をしていくべきだという意見が出ました。また、こども食堂に関しては、市が農家の方や企業をマッチングして廃棄物を有効利用するという意見も出ました。解決の糸口が見えづらい難しい問題でしたが、今後困っている子どもをきちんと見つけてあげるために、一人一人が地域の中で子どもを見てあげることが大切だろうし、取り組みとしてはとても良いという意見が多く挙げられました。

テーマ担当職員から

子どもの居場所に関わる3つの事業について、現に放課後児童クラブを利用されている方や子育てを終えた方、子育てに関わる仕事をされている方などからの様々なご意見をいただきました。それぞれの事業については一定の評価をいただいた一方、利用あるいは事業への協力を希望する方などへの情報発信が課題であると感じました。今回いただいた貴重なご意見を参考にしながら、よりよい子どもの居場所づくりに努めてまいります。

子供未来局
子供家庭支援課
木明 司

子供未来局
児童クラブ事業推進室
市川 宏明

教育局
生涯学習課
岡本 直哉

参加者からの主なご意見

- ◎地域のかかわりが大事、いろいろな場所で情報を発信していく。児童クラブの体験ができるといい。
- ◎多くの人々の協力を得るためマスメディアへの取り上げの依頼などをするべきと思う。草の根の運動を行政ばかりに頼らず皆の力で解決していくべきではないか。
- ◎こども食堂については子どもの目が留まるところで(学校でのプリント配布等)を行うのがいいと思った。協力したい、という地域の人には広報誌等で周知してほしいと思った。

認知症の人が暮らしやすい地域づくり

主な説明内容

高齢化の進展に伴い、認知症の人の数は増加が見込まれ、地域で認知症の人と家族を支える体制の整備を進める必要があります。認知症に関する知識の普及啓発や認知症の人と家族の支援など、認知症の人と家族が暮らしやすい地域づくりについて話し合いました。



認知症について知ってほしいこと

認知症について、みなさんに知ってほしいことが3つあります

- ① 認知症になっても、社会とのつながりの中で生活が続けられること
- ② 早めに病院に行き、相談することが大切なこと
- ③ 相談窓口がたくさんあること

1

本人と家族が最初に変化に気づいた様子

変化の種類	本人 (%)	家族 (%)
もの忘れが頻繁になった	55.1%	70.7%
物の置忘れが増えた・物をなくす	47.1%	62.3%
同じことを何度も言った・聞いたりする	34.7%	31.0%
文字や漢字が書けなくなった	27.6%	21.0%
約束を忘れた	25.9%	16.1%
家事、仕事、運転等のミスが増えた	25.9%	16.1%
文章や相手の話がわかりにくくなった	25.9%	16.1%
些細なことでイライラするようになった	25.9%	16.1%
服装を選ぶのが難しくなった	25.9%	16.1%
眠くはないのにぼんやりすることがある	25.9%	16.1%
周囲への気遣いができなくなった	25.9%	16.1%
まわりから指摘されるまでわづらなかつた	25.9%	16.1%

2

仙台市の認知症施策

国の「認知症施策推進総合戦略」(※)に示される施策と目標に基づき推進しています

普及・啓発	認知症サポーターの養成と活動の支援
	認知症ケアパス普及・カフェ等設置
	認知症疾患医療センター整備
早期診断・早期対応	認知症サポート医の養成
	認知症対応力向上研修
	認知症初期集中支援チームの設置
本人・家族支援	認知症地域支援推進員の配置
	認知症カフェ等の設置推進
	認知症ケアパスの作成・普及
良質な介護の提供	認知症介護実践研修
	介護サービス基盤の整備

3

認知症サポーターについて

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、地域や職場において認知症の人やその家族を見守る「応援者」のことです。認知症の人や家族が安心して暮らし続けることのできる地域づくりを推進します

■認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」は平成17年から始まった研修です。平成29年3月末現在、認知症サポーターは全国で880万人います。

■認知症について正しく理解し、偏見を持たず、ご本人やその家族に対して温かい目で見守ることがスタートです。

■仙台市では、企業・学校・地域団体等(10人程度以上)からの申込みにより講師を派遣します。詳しくは、仙台市健康福祉事業団(電話022-215-3711)にお問合せください。

4

専門家から



社会福祉法人 東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター
主任研修研究員

矢吹 知之氏

参加者の多くは、すでに介護の仕事をしている方、または介護の経験者や今まさに介護をしている方でした。そのため、地域の人たちに認知症をもっと理解してもらうための具体的な提案がされました。例えば、知らず知らずのうちに情報を得るための地域の工夫が提案されました。認知症の課題は、長期的な視点も大切ですが、喫緊の課題であるため、短期的に、着実に実行される必要があります。今回の提案を参考にぜひ実行に移してほしいと思います。

ファシリテーターから



特定非営利活動法人
日本ファシリテーション協会
理事

中西 百合氏

今回は「住民参加型で認知症の人が暮らしやすいまちづくり」を基軸に話し合いました。地域で実施されている市民活動や全国の先進事例などの情報も参加者から提供され、とても充実した話し合いとなりました。お年寄りと子どもと一緒に生活できる施設、市民活動としての介護予防教室の開催など、市民が主体的に、自分が、家族が認知症になっても住みやすい地域のためにアクションを起こそうという意識が、とても印象的で心強く感じました。

専門家からのアドバイス

認知症になっても地域で安心して暮らすためには、地域住民一人一人が自分のこととして考えなければなりません。地域が変わるとは、自分自身が変わることだからです。私からの問題提起は次の通りです。

- ①認知症の人は512万人いると推計されています。地域での支え方や認知症に対する偏見を軽減する取り組みは急務となっています。
- ②高齢者虐待は年間15,000件を超えています。介護保険を利用して介護者への支援が不足しており、老老介護やダブルケア、介護による離職などの問題があります。
- ③認知症の人のうち行方不明者は年間16,000人を超え、400名以上が遺体で発見されています。地域の見守りや理解がなければ在宅での介護は難しく、本人も安心して外出できません。
- ④自動車事故の半数以上は高齢者によるものであり、その中には認知症の人もいます。また、車を使わない生活をするための地域での工夫も必要です。

これらの課題について、地域、そして私たちは何ができるでしょうか。安心して暮らすための話し合いをしましょう。



テーブルトークの結果

家族や自分自身が認知症になったら

認知症の人が暮らしやすい地域づくりをテーマに話し合いました。仙台市が取り組む対策や説明を交え今現在の課題について2つのグループに分かれて意見を出し合いました。サブテーマとして「家族が認知症になっても／自分自身が認知症になっても楽しく暮らしていくには」を設け、具体的に話を進めました。

まず重要視したのは地域とどう繋がるかという点です。介護対象になる前に地域との繋がりを目指す介護予防サークルや、認知症にならないことを目指すサークルなどがあると分かりましたが、問題点として地域差、住宅環境の差で情報の流通に差がうまれることも分かりました。解決策として、相談の場に向向くのではなくスーパーなどに窓口を設け気軽に相談できる環境づくりを、という案が挙がりました。また、力になりたいという方と手助けを受けたい方、双方が繋がる仕組みを考えていければという案も挙がりました。

偏見をなくすために

偏見をどうやってなくすかという大きなテーマについても話し合いました。認知症サポーター制度の充実が偏見の減少、ひいては周囲に話しやすくなり安心して暮らせるようになるのではという案や、高齢者・障がい者・子どもがーか所に集まり互いに支え合う富山型デイサービスの仕組みづくりという案も挙がりました。様々な地域団体が活動している今、各団体の活動を介護や地域の支え合いにまで広げられれば、みんなが幸せに暮らしていけるのではという結論へと繋がりました。

テーマ担当職員から

自分や家族が認知症になったときに安心して暮らすためにはどうしたらよいかについて、幅広い年代の方と話し合いました。誰もがなり得ることを理解し、身近な問題として考えることで、前向きなご意見がたくさん出てきました。高齢になってからだけではなく、若いうちから正しい知識を持つことが大事であることを再認識しました。ご意見を参考にして、認知症の人とその家族が暮らしやすい地域づくりの推進に努めてまいります。

健康福祉局 地域包括ケア推進課 片桐 由紀
健康福祉局 地域包括ケア推進課 川上 希美

参加者からの主なご意見

- ◎認知症サポーター養成講座を小学校、中学校、保護者に向け定期的
に実施する。
- ◎今、行われている施策が十分機能するなら安心だと思われませんが、
単身世帯の増加が進行するこれから、認知症単身世帯をどのように
見守るか、町内会単位のサポート(あるいはNPOでの)の構築の検討
が必要な気がします。
- ◎地域の方々とのつながり方を考える必要がある。地域行事に子ども
がいない世帯も参加できるようなことがあればよいと思う。

新しい本庁舎に期待すること

主な説明内容

老朽化した仙台市役所本庁舎を建て替える準備を始めています。防災拠点としての機能や市民の交流機能など、新しい本庁舎に期待する機能や役割について話し合いました。



本庁舎が抱える課題

【老朽化】			
●建築設備の劣化	・補修部品の生産終了により困難化する修繕への対応 ・劣化進行による水漏れ等トラブルの急増 など		
●コンクリートの中性化	・コンクリート構造体の耐用限界まで残り13年から14年程度 など		
【老朽化以外の課題】			
●防災性	・災害対応能力の向上 ・対応遅延リスクの軽減 ・災害対応に活用(転用)可能なスペースの確保 ・非構造部材や設備の損傷による業務不能化リスクへの対応		
●機能性	<table border="1"> <tr> <td>・建築設備保全困難化への対応 ・業務特性に応じたセキュリティの確保 ・分散した庁舎等の集約</td> <td>●活用性 ・事務室運用の見直し ・多目的スペースの確保 ・東日本大震災関連情報発信スペースの</td> </tr> </table>	・建築設備保全困難化への対応 ・業務特性に応じたセキュリティの確保 ・分散した庁舎等の集約	●活用性 ・事務室運用の見直し ・多目的スペースの確保 ・東日本大震災関連情報発信スペースの
・建築設備保全困難化への対応 ・業務特性に応じたセキュリティの確保 ・分散した庁舎等の集約	●活用性 ・事務室運用の見直し ・多目的スペースの確保 ・東日本大震災関連情報発信スペースの		
●社会性	<table border="1"> <tr> <td>・現行法規への適合や省エネルギー等への配慮 ・バリアフリーの向上 ・室内環境や分かりやすさ、イメージの向上</td> <td>●経済性 ・維持管理等コストの圧縮 ・今後の庁舎保全への対応 ・性能等の向上や強化への対応</td> </tr> </table>	・現行法規への適合や省エネルギー等への配慮 ・バリアフリーの向上 ・室内環境や分かりやすさ、イメージの向上	●経済性 ・維持管理等コストの圧縮 ・今後の庁舎保全への対応 ・性能等の向上や強化への対応
・現行法規への適合や省エネルギー等への配慮 ・バリアフリーの向上 ・室内環境や分かりやすさ、イメージの向上	●経済性 ・維持管理等コストの圧縮 ・今後の庁舎保全への対応 ・性能等の向上や強化への対応		

今後の検討に向けた課題

理想・あり方	具体化に向け今後検討を進めるべき事項
災害対応の司令塔	○円滑な災害対応に寄与する庁舎や敷地の活用
高い利便性	○番号や色分けによるわかりやすい案内サインの導入 ○執務環境等の改善
社会的な要求の充足	○庁舎内各フロアにおけるセキュリティゾーニングの導入 ○低炭素化を通じた環境への配慮 ○ICTに対応する庁舎仕様
柔軟性・持続可能性	○建物更新を考慮した敷地の活用 ○効率的な事務室運用と機能的なファイリングの実施 ○コミュニケーション強化に寄与する庁舎内レイアウトの導入
市民・地域への貢献	○賑わい創出と災害対応に寄与する広場の設置 ○庁舎内イベント開催スペースの確保 ○市政関連情報発信スペースの拡充 ○周辺交通環境の改善(駐車場運用改善等)
地域特性の表現	○仙台らしさの反映 ○歴史や記憶の伝承

専門家から



東北大学大学院工学研究科教授

小野田 泰明氏

新庁舎の機能や役割、建て替え場所、全体の費用などについてさまざまなアイデアが出されました。参加者の方から、わかりやすい説明があれば単にコストだけではないことを理解するし、いいものであれば私たちは納得するよという話があったのが印象的でした。市庁舎の建て替えは難しい仕事になると思いますが、仙台が21世紀にも魅力ある都市であり続けるために重要な事業でもあります。今回の提案も参考にしながら、建て替え事業を進めてもらえればと思います。

ファシリテーターから



アナウンサー・朗読家

渡辺 祥子氏

日常の手続きは区役所で事足りるため、本庁舎に足を運ぶ事は少ないという参加者もいたことから、本庁舎の存在意義を深く話し合う事ができました。本庁舎は、業務や手続きを行うだけの場所ではなく、市民の誇りとなるシンボルであり、まちのにぎわいづくりに寄与し、憩いの場であり、一人一人に優しいものであってほしいとの視点で、様々なアイデアが出され、高揚感が得られました。新しい市庁舎を考えることが、新しいまちづくりを考えることに密接につながるとの意識を共有した、貴重な時間でした。

専門家からのアドバイス

かつての市庁舎は ①住民票など書類を取りに行く ②市職員が執務する ③業務認可や打ち合わせをする ④市のイメージを発信・共有する ⑤市議会がある、といった場所でした。しかし現在では、①電子化で端末から書類が取り出せる ②少子高齢化・人口減・官民連携などで、市民はサービスの一方的享受者から困難を解消する行政の協同者となりつつある ③都市の商業機能が後退する中、他者と公共感を共有できる市庁舎は都市再生の鍵である、といった変化が起っています。④市政の決定プロセスが可視化され市民参加の契機にもなっています。市庁舎がまちに与える影響は大きく、駅前や中心部など空洞化したところに実際に建てて、活性化した事例もあります。建築費は、光熱費、修繕費、運営費、最終除去費用など、建築が役目を全うする間の全体費用からすると4分の1以下で、建設費をいわずらに叩くと全体費用は逆に上がります。何十年も使う市庁舎ですから、どうすれば仙台にとって価値のあるものになるか考えましょう。



テーブルトークの結果

市民が訪れたいくなる場所を考える

「新しい本庁舎に期待すること」をテーマとし、現本庁舎が抱える老朽化、災害対応能力の向上、維持管理コストの軽減といった懸念事項をまずは確認しました。また、国内外の様々な庁舎が街に与えている影響を皆で共有し、話を進めました。ただ、日頃の手続きは区役所で間に合うため本庁舎に出向く理由がないという意見もあり、「市民が訪れたいくなる新しい本庁舎」を改めて考えていく必要性を認識しました。

この市に住む一人ひとりが考えていくべきこと

マルシェのような庁舎や気軽に立ち寄れる庁舎、緑が広がる庁舎などが挙がり、立ちながら議論する議場の案や、市

長室を市民にすぐ会える1階に設けては、といった意見も挙がりました。長く使えて市民の誇りになりシンボルとなる庁舎にしたいとなりましたが、そこでライフサイクルコストという考えが挙がりました。建築費はもちろん光熱費、修繕費、最終的には除去する費用も含め考えなければならないというのですが、透明化が分かりやすく、比較も交え説明してくれば市民も納得するのでは、という結論に落ち着きました。新しい本庁舎の場所は現在地が有力であるため、市民広場と本庁の一体化も視野に入れては、という意見も挙がりました。新しい本庁舎を建てることはこの市に住む自分たち一人ひとり、そして仙台市が考えていかなければならないこと。更に100年後、1,000年後の未来この地に生きる人たちのことも考え、新しい本庁舎の建設に期待したい、と繋がりました。

テーマ担当職員から

あまり馴染みがないという方も多い本庁舎ですが、行きたいくなる庁舎という視点で、多くの貴重な意見をいただきました。建設費だけでなく、使い始めてからのコストも考えて、長く使えるものにしてほしいという期待も感じました。一方で、きちんと市民に説明してほしいという声もありました。

今回のご意見を参考に、積極的な情報発信に努めながら、皆さんの期待に応え、長く親しまれる庁舎の整備に取り組んでいきたいと思えます。

財政局
庁舎管理課
佐藤 宇哉

財政局
庁舎管理課
穴戸 直子

財政局
庁舎管理課
鹿中 律良

参加者からの主なご意見

- ◎入ったところに門番がいるような感じではなく、もっとオープンに入れるといい。
- ◎議会や会議室などを使わないときは貸し出したらいいのではないか
- ◎市民広場との間に人の流れを作ったほうがよい。
- ◎中途半端なものを造るのではなく、しっかりとしたものを建てて長く持たせてほしい。
- ◎オープンで自由に議論できるような議場も変わるべきではないか。



本イベントへの
参加者からの
主な
ご意見・ご提案

イベントについて

- ◎初めての参加でしたが、市の様々な施設や取り組みを聴くことが出来、有意義な時間を過ごせた。
- ◎官庁中心の計画になりがちであるが、市民の声を聞くことは大切であろうと考えさせられた。
- ◎様々な立場のいろいろな考えを持った方々と意見交換ができてとても楽しかった。
- ◎もっとこのような機会が多くあればより市民もまちづくりに積極的になれるのでよいと思う。
- ◎皆様との意見交流が出来とても参考になった。他のテーマ発表を聞くこともできたのでよかった。

今後の開催に向けた提案

- ◎成人者の声を聞くことも大切だが小・中学生、高校生、年代別に機会があったら将来の仙台像がうかんでくると思える。
- ◎仙台市のホームページ等で今回のフォーラムの様な形式でメール受付をして市民の意見を広く集めるといいと思う。
- ◎1つ1つのテーマについてもっと掘り下げて話したいので次回はトピックを少しぼけて話したほうがいいのかもしい。
- ◎一般市民参加型の勉強会をもっと増やしてほしい。
- ◎男だけのグループ、女性多数のグループなどがあり、意見のかたよりが心配だった。

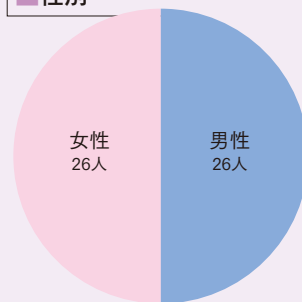
仙台市から

仙台市が進めている重要施策の中から、今回は6つのテーマについて話し合いました。テーマごとに施策の現状について課題や問題点を出し合いながら評価をしたあと、アイデアを出し合ったり議論したりしながら、より良い施策とするための提案をしていただきました。参加者の中には、実際に制度を利用されている方や市の施設に足を運んだ方も多く、具体的な意見や提案が目立ちました。また、行政にやってもらうというよりは、この施策について私たちは何ができるかという意識を持ちながら、市民協働の目線で議論されていたのも印象的でした。

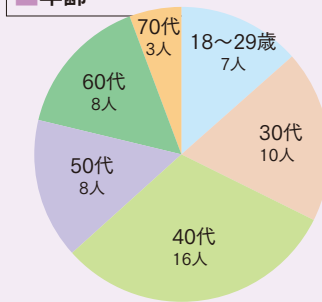
市職員にとっては、市の施策について直接説明し、市民目線からの意見や提案をうかがう貴重な機会となりました。今回出された具体的で魅力的な意見や提案については、市役所内で共有し、今後施策を展開していくにあたりどのように活かしていくか検討します。

参加された方々
参加者合計:52人

性別



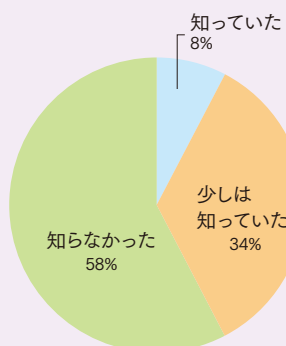
年齢



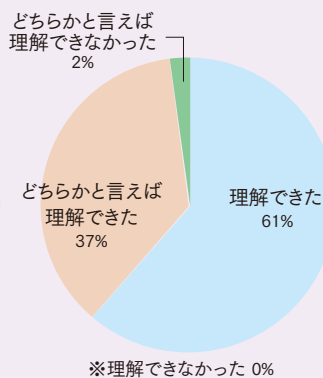
施策アンケート
の集約結果
回答者:52人

イベント終了後に施策の評価をしていただきました。

施策の認知度



施策の理解度



施策に対する評価

